

ハブになつた波

現在、奄美大島と呼ばれる島に、まだ何も住んでいなかったころのお話です。

昔々、この島には、
ドドドドドドドド、ドドドドドドドド、ドドドドドドドドと波ばかりが激しくぶつかって
いました。

波たちは、遠い遠い海のかなた、だれも行つたこともない国からやって来ては、

ドドドドドドドド、ドドドドドドドドと、ぶつかってはまた遠い国へと帰って行くのでした。

世界中の海を旅している波たちは、いつの日からか、「この島の森にすんでみたい……」

……」と思つようになりました。

それは、世界中を探しても、この島のように美しい緑につつまれた森は他になかった
からです。

それからというもの、その想いは日にく日に増していくばかりでした。それ以来、ずー

と海の神様に「この美しい島にすみたい」と何回も何回もお願ひしてきました。

しかし、その願ひは、なかなか叶えられるものではありませんでした。

それから、どのくらいの時代が流れたことだろうか。

いつものように、波たちは海の神様に「われわれは、この海の世界を出て、あの美しい島

の森にすみたいと願ひしております。どうか、われわれの想いを叶えてください。」と、

お願ひしました。

今までどんなにお願ひしても、返事がかえってきたことは一度もありませんでしたが、

今度は、どこからともなく、「そうか、おまえたちはそんなにあの島の森にすみたいか、

それなら、わしがあの森の主に頼んでみよう」という返事がかえってきたのです。

びっくりした波たちは、「これは、きっとわれわれが何千回いや何万回もお願ひしてき
たから、その願ひが海の神様に届いたんだ」と叫びながら飛び上がって大喜びしました。

その様子を見ていた海の神様は、さっそく森の主に事の次第を話し、波たちの願ひを叶
えてやってもらえないだろうかと頼みました。

話を聞いた森の主は、「今の姿で森にすむのはできないので、姿を変えてもよいとい
うのであれば考えてみましょう。それから、もうひとつ、森にすむことになったら森の
番人としてすんでほしい。この二つのことを波たちが約束すれば、望みを叶えてやりま
しょう。」といました。

その返事を聞いた海の神様は、さっそく、このことを波たちに伝え、……………

「おまえたちがそれでもよいと思うなら、望みは叶えられるが、どうするかみんなで話し合ってわしに報告しなさい」と告げました。

そこで波たちは集って話し合いをすることにしました。

そして、幾日間か、波の国では、真剣な話し合いが開かれ「今のこの姿をどんなふうに変えられるのか知りたい。もう一度神様に聞いてみてはどうか」と云ういうことになりました。

そして、もう一度神様に「神様、われわれはいったいどんな姿になるのですか」と尋ねてみました。

すると「それは森の主がお決めになることで、それはわしにもわからん」と返事がかえ
ってきました。

そこで、ふたたび話し合った波たちは、「どんな姿にされても森に住みたいものだけ
がお願いしたらどうか」ということになりました。そして、森に住みたいものだけで、ま
た、神様にお願いにしました。

それから数日たったある日のこと、どこからともなく、今までにないものすごい風が、ビ
ュビュービューと、激しく吹き荒れたかと思うと、波たちは海から次々と干切れた
布みたいに森の方へ飛吹き飛ばされて、みんな氣を失ってしまいました。

しばらくして、目を覚ました波たちは、自分たちに何が起こったのか分からず、ポ―

ツとしていましたが、突然何かに操られるように、いつせいに森の奥へと上り始めてい
ました。その容姿は、吹き飛ばされてたたきつけられた時についたあざが体じゅうに
付いて、歩き方は、どことなく波の時と同じような恰好になっていました。

そして、ようやく、森の奥深いところにたどり着いたとき、そこには森の主がみんな
を待っていました。

そして、「わしの森へようこそ、おまえたちの望みどおり、森にすむようにしたので今度
はおまえたちがわしとの約束を守る番だぞ」と言いました。

このとき、はじめて波たちは、自分たちが森に来て姿が変わっていることに気づき
驚きました。そして、自分たちを望どおり森にすめるようにしてくれた海の神様と森の

主に感謝し、約束どおりこの森の番人として棲むことにしました。

それから、数年が経ち、波たちはすっかり森にもなじみ、森の主との約束を守り続けていました。

そんなある日のこと、森の主がみんなを呼び集めました。

みんなは「いったい何があったんだろう」といいながら心配そうにあちこちから集まって来ました。

みんなが、集まると、森の主は「おまえたちは、約束どおりこの森の自然を守り森の番人として一生懸命頑張ってきた。今日は、その褒美として、おまえたちに新しい名前をつけてやろう。おまえたちは、広い海からこの森の番人として生まれ変わった。そこで、

波から生まれ変わったので『波生（ハブ）』と名づけよう。

これからも『波生（ハブ）』と名のって、この森の自然を守って生きてほしい」と言われました。（……みんなは耳をすまして聞き入りました）

波たちは、『波生（ハブ）』という新しい名前をもらって、大喜びしました。

その後、森に来た波たちは、海から吹き飛ばされた時についたあざが消えずに残り、それが体の模様になったということです。

また、『波生（ハブ）』になっても、波だったころの種やかさと、激しく荒れ狂う性格はそのまま残ったそうです。

そして今も波たちの愛した美しい島の自然を約束どおりハブ（波生）として守り

続けているということですよ。

そのおかげで、奄美大島は豊かな森と自然が守られているということですよ。

創作者 きがき 寛

問合せ 08083813384